見出しのれい 30 ―― どれを つたえる 記事？

4年 総合的な学習の時間「きれいな町 木曽川」／木曽川エコ新聞　　数字は**れい**。自分で調べた数字に入れかえよう

① 社会の課題（事実）をつたえる

つくり方：数や大きさ ＋ それがどういうことか。「～が～する」の形にすると強くなる。

1. もえるごみ1日200t　4年分でプールがいっぱい
2. ペットボトル　ラベルを取らないと資源にならない
3. 食べられたのに捨てられた　生ごみの3分の1
4. 水道管の寿命は40年　町の下で進む「老い」
5. 1人が1日に使う水　おふろ1ぱい分より多い
6. 1時間に50mmの雨　町の道が川になる
7. 木曽川ぞいの町　水につかる深さは2m
8. 分けられずに燃えるプラスチック　もえるごみの2割

② 希望（よくなること）をつたえる

つくり方：「～すれば～になる」「～がもどってきた」。読む人が「やってみよう」と思える終わり方に。

1. ごみは8年で3割へった　分けるだけで町は変わる
2. きれいになった用水　メダカがもどってきた
3. 1人が1本もどせば　ペットボトルは服になる
4. 「あと1つ分ける」で　ごみは1日3tへる
5. 水をとめる3秒　町ぜんたいでプール1ぱい分
6. 防災マップを見た家から　にげる時間が生まれる
7. 木曽川を自まんできる町へ　4年生からはじめる

①と④は、その事実を**どこで知ったか（出典）**を本文にかならず書く。

見出しのれい 30 —— どれを つたえる 記事？

4年 総合的な学習の時間「きれいな町 木曽川」／木曽川エコ新聞　数字は**れい**。自分で調べた数字に入れかえよう

③ 新しい取り組みをつたえる

つくり方：だれが・何を・いつから。市・お店・学校・町内会など、だれがはじめたかを先に書く。

1. 市が「ごみの分け方・出し方」アプリを開始
2. スーパーがトレーの回収箱を設置
3. 環境センター　資源ごみを24時間うけつけ
4. 学校にペットボトルキャップの回収箱
5. 市が雨水タンクの費用をいちぶ出す
6. 町内会が「にげる道」の看板を新しく
7. 水道管　こわれる前に取りかえる工事へ
8. 公民館のひなん所に「ペットの席」ができた

④ 自分がやってみたこと（実体験）をつたえる

つくり方：「〜してみた」＋ 分かった数や様子。自分で見た・聞いた・はかったことは、だれも持っていない事実。

1. 家のごみを1週間はかってみた　6.4kg
2. ラベルをはがすのに10秒　1本だけ手間をかけた
3. 水を出したまま歯みがき　6Lが流れていた
4. 環境センターを見学　ごみの山は3かいだての高さ
5. 通学路を歩いて調べた　ごみは23こ
6. 雨の日の用水を見にいった　水はふだんの倍
7. おばあちゃんに聞いた　35年前の木曽川

①と④は、その事実を**どこで知ったか（出典）**を本文にかならず書く。